

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 11月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100249		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム白木の郷		
所在地	広島市安佐北区白木町小越230番地 (電話) 082-828-0123		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100249&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年9月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・併設施設との効果的な連携・不定期に実施される個別外出
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム白木の郷（以下、ホーム）は、自然環境に優れた丘の上にあります。敷地内には、法人が運営する身体障害者療護施設と介護老人保健施設があります。併設施設に常駐している医師が、入居者の健康管理も担当し医療面が充実しています。</p> <p>併設施設に地域交流のための「ぼっかぼか広場」が設置され、入居者にとっても活発な地域交流の場となっています。</p> <p>各居室入り口の反対側に掃き出し窓が設けられ、明るい部屋となっています。また、掃き出し窓から入居者が直接外に出られる構造となっています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 (1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を職員全体が理解し、当施設オリジナルの理念を作成し、それに基づいたグループホーム特有のサービス提供ができるよう努めている。	ホーム開設時に、職員が協議して「毎日を楽しく、笑顔でゆつくりと寄り添いここへ来て良かったと思えるような、もうひとつの家・家族でありたい」という理念を作成されています。理念は、職員室に掲示し、職員全員が共有できるよう配慮されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の公民館で実施されているサークル活動に参加したり、当施設が地域交流のために実施している「ぽっかぽか広場」へ参加し、地域の一員としての交流を行っている。	併設施設に地域交流のための「ぽっかぽか広場」を設置され、入居者と地域住民の交流の場となっています。この広場では、ほぼ毎月交流行事が実施され、うどん作りやお月見団子作りなどを一緒に楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において、施設内での認知症高齢者へのコミュニケーション方法を紹介していく予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設での行事紹介や事故報告を行っている。また、ご家族から利用者の生活歴をあらためて引き出すことで、施設内でのサービス提供に役立てている。	メンバーは、自治会長、民生委員児童委員、入居者、家族、行政関係者で構成されています。会議は、2か月ごとに開催され、運営状況の報告に関するものが主な議題となっています。	今後は、地域の老人クラブや女性会などに働きかけ、会議のメンバーに加わってもらうなど、運営方法やサービスの質の向上について、さらに幅広く活発な意見交換が行えるように配慮されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	白木地区地域包括支援センターとの情報交換を行い行政との連携に努めている。	運営推進会議に毎回行政関係者が出席しています。また、認知症ケア加算の基準など介護保険法に関することも相談されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>処遇会議を通じ、身体拘束ゼロの意識を共有している。また、外部研修に参加し、さらに理解を深めていきたい。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践について、マニュアルや処遇会議を通して職員で共有されています。なお、要介護度の低い入居者が多く、やむを得ず身体拘束をされた事例はありません。</p>	<p>認知症高齢者のケアについては配慮すべき点も多いことから、どのようなことが身体拘束に該当するのか、日頃から正しく理解するために研修を開催するなど、さらなる取り組みに期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。また、外部研修に参加し、さらに理解を深めていきたい。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>新規採用職員に対しては、法人で新任職員研修を実施し、権利擁護や法令遵守について学習している。</p>	/	
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は相談員と計画作成担当者が重要事項説明書を基に説明を行っている。また、契約前の事前面接についても相談員と計画作成担当者が本人および家族のニーズを引き出すよう努めている。</p>	/	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>法人全体の取組みで、顧客満足度調査を実施しており、家族へアンケートを送付し、後日集計、検討している。</p>	<p>法人全体で毎年、アンケート調査を実施し、結果をインターネット、広報誌、掲示などで公開されています。ホームでは、入居者一人ひとりに対して、きめ細かな対応が求められるため、入居者や家族から、さらに意見を得るための仕組みを検討されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月処遇会議にてリーダーおよび介護従事者との意見交換が行われている。また、年に1度代表者が全職員と面談を行っている。</p>	<p>毎月の処遇会議で、リーダーと担当者が意見交換して業務の改善について話し合われています。職員の提案で、シーツ交換の手順の見直しをするなど、職員の意見を業務改善につなげられています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員は上・下期に個人目標を設置し、自己評価した上で、上司と面談を行い、フィードバックを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内でOJT委員会や研修委員会を設置し、各委員会の中で、外部研修に参加する仕組みがある。外部研修に参加した際は、施設内で報告会を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内で新任職員研修、2年目研修、中堅職員研修等を実施しており、法人内他事業所多職種が集まり意見交換ができるようになっている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>職員は利用者の話を傾聴することを心がけ安心を確保するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用申し込み受付や事前面接において、家族の不安を聞き出すとともに、家庭環境や生活状況を考慮し、家族および利用者にとって一番効果的なサービスを提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当事業所だけでなく、併設事業所や法人内他事業所を提案させていただき、本当に必要なサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする関係を築くため、利用者と同じ空間で昼食を摂るなど工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況報告や連絡、相談を行っている。また、1ヶ月の行事予定表を郵送し、可能であれば行事に参加していただくよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	不定期に実施される個別外出で、自宅周辺や思い出の場所に外出している。	利用者の誕生日を祝うために友人や家族が集まり、市内の喫茶店で誕生会を開催されています。また、自宅が気になる入居者へは、自宅訪問に同行されています。さらに、日常の外出の折にも近くの名所や思い出の場所に出かけられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	当施設では夫婦での入所者もおられ、食堂でのテーブル配置や行事参加の呼びかけ等の気配りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設施設へ転所された利用者は、気分転換に当事業所へ来て他利用者とお話しをされたりと交流を図っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	処遇会議にて利用者とのコミュニケーション方法を検討しています。	入居者とできる限りコミュニケーションをとり、思いを汲み取るよう努力されています。目が不自由で新聞が読めない入居者へ新聞ニュースの読み聞かせを行うなど、個別に対応され、入居者の満足そうな表情が見受けられました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接において利用者の生活歴をできるだけ詳しく聞き出すことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なバイタルチェックや体調不良の早期発見に努めている。また、体調不良時は併設施設の看護師と協力し外部受診等の対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族、主治医、相談員等の意見も取り入れた介護計画の作成を努めている。</p>	<p>サービス計画については、関係者の意見を取り入れて作成されています。職員2人で利用者3人を担当し、3か月に1回モニタリングが実施されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録として個人記録を作成しており、日中の様子を残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その日の利用者の状況によって、突発的に外出を行っている。また、併設事業所と協力し、サービスの多機能化に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者の趣味や特技を把握し、近隣の公民館のサークルに参加している。今後より多くの方が参加できるよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時に、家族から指定の病院があるか確認している。家族の要望があればその病院に受診し適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>希望により家族付き添いのもと、かかりつけ医で受診されています。職員が同行しない場合は、家族から治療方針や投薬について引き継ぎを受け対応されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設施設の診療所と連携を図り、利用者の体調不良時等は看護師に相談し、適切な受診は実施できるよう支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院となった場合は病院の相談員やご家族に状況を確認し、退院許可が下りた時点で速やかに受入れが出来るよう配慮している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化した利用者については、家族と話し合いを行い、併設施設への転所を提案している。	これまでに事例はありませんが、家族の希望により対応することとされています。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	施設内研修を実施し、緊急時の対応に備えての知識を得よう努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回の消防・避難訓練を実施している。また、うち1回は地域住民に参加していただき、火災時の避難誘導のシュミレーションを実施している。	ホームと併設施設を合わせると200人以上の利用者が敷地内で生活しており、開設当初から災害を想定した取り組みが行われています。地域住民の協力も得られています。また、ホームには、スプリンクラーを設置するとともに、入居者は各居室から直接外へ避難することが可能となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者呼び方について、ちゃん付けやあだ名でよばないよう施設内で取り組んでいる。例外もあるため、その際は家族に同意を取って許可をいただいている。	名前を呼ぶ際には、「さん」付けを徹底するなど、言葉かけに気をつけておられます。各居室のドアは閉められ、中の様子が見える小窓もないため、プライバシーが確保されています。入室する際は、必ずノックや声かけをしてドアを開けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中においてできるだけ自己決定していただくようコミュニケーションを図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっておらず、その日の利用者の体調や希望によって日々のケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	意思疎通の可能な方の更衣については本人の好きな服を着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は昼食のみ利用者と一緒に摂るようにしている。準備、片付けについても職員と利用者が一緒に厨房まで食事を取りに行っている。	食事は、併設施設の調理場で調理したものを提供されていますが、ご飯はホームで炊いておられます。月1回は、入居者が手作り料理を楽しむ機会を設けられています。また、食事後は、入居者が洗い物を積極的に手伝っておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	施設の管理栄養士と連携をとり、栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	利用者の身体状態にもよるが、可能な限り個々の口腔ケアを行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排便チェック表を作成し、排便の周期を把握するよう努めている。また、個々の周期に合わせてトイレ誘導や声掛けを実施している。	夜間にオムツを使用する入居者もいますが、自立している入居者が多くいます。排泄パターンを把握し、必要に応じて、さりげなくトイレ誘導や声かけが行われています。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	毎朝のラジオ体操の実施と可能な範囲での洗濯干しや掃除を行い、できるだけ体を動かすよう配慮している。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	利用者の希望に合わせた入浴を実施している。入浴の順番等も決めておらず、本人の自己決定によるところが大きい。	浴室は、左右どちら側からでも介助できるように、浴槽周りにゆとりがある構造で、ゆったりと入浴することができます。入居者の希望に応じた入浴を支援され、夫婦揃って入浴される入居者もおられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息の場は居室だけでなく、畳スペースも設置することで、利用者が安心して休める空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の薬の目的等の理解を深めるよう努めている。また、誤薬や飲み忘れがないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の趣味や特技を把握し、近隣の公民館のサークルに参加やプランターの花植え等を行い支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に外出行事を企画している。利用者全員の希望を実現することは難しいが、実現可能なものにはできるだけ応えるよう努めている。	入居者の状態に変化があった場合は、「ふらっと」外出したり、ドライブや買い物、近くの名所を訪問したり、気分転換を図られています。また、外出行事も計画されています。	毎日の散歩、買い物、外食、ドライブ等、外出が日常の楽しみごとになるよう、さらに取り組みされることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は少なく、買い物外出の際は職員があらかじめお金を用意し、外出時に本人に渡すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族に協力してもらい、可能な方のみ実施している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には利用者の作品や行事の写真を掲示している。派手に飾るのではなく、家庭的な雰囲気演出するよう心掛けている。</p>	<p>木造平屋建ての新築ホームで、天井が高く、天窗もあり明るい空間となっています。機能的なレイアウトとなるよう工夫され、共有空間が広がっています。畳の居間は、段差が少し高くなっています。床には滑りにくい木材を使用し、入居者の安全に配慮されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間のテーブルを小さくし、利用者同士が近くで話ができるよう配慮している。また、畳スペースにコタツを設置し、利用者同士が話をしやすい環境づくりに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所時に、今まで使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせる空間を作れるよう努めている。</p>	<p>各居室に掃き出し窓があり、明るい部屋となっています。居室には、ベッド、洗面台を設置していますが、テレビ、イス、テーブル等の使い慣れたものや博多人形等の馴染みの品が持ち込まれ、快適な環境となっています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者によって差はあるものの、それぞれの残存機能を把握し、その機能を最大限活かせるよう努めている。</p>		

V アウトカム項目 (1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 (2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を職員全体が理解し、当施設オリジナルの理念を作成し、それに基づいたグループホーム特有のサービス提供ができるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の公民館で実施されているサークル活動に参加したり、当施設が地域交流のために実施している「ぼっかぼか広場」へ参加し、地域の一員としての交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において、施設内での認知症高齢者へのコミュニケーション方法を紹介していく予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設での行事紹介や事故報告を行っている。また、ご家族から利用者の生活歴をあらためて引き出すことで、施設内でのサービス提供に役立っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	白木地区地域包括支援センターとの情報交換を行い行政との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>処遇会議を通じ、身体拘束ゼロの意識を共有している。また、外部研修に参加し、さらに理解を深めていきたい。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。また、外部研修に参加し、さらに理解を深めていきたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>新規採用職員に対しては、法人で新任職員研修を実施し、権利擁護や法令遵守について学習している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は相談員と計画作成担当者が重要事項説明書を基に説明を行っている。また、契約前の事前面接についても相談員と計画作成担当者が本人および家族のニーズを引き出すよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>法人全体の取組みで、顧客満足度調査を実施しており、家族へアンケートを送付し、後日集計、検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月処遇会議にてリーダーおよび介護従事者との意見交換が行われている。また、年に1度代表者が全職員と面談を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員は上・下期に個人目標を設置し、自己評価した上で、上司と面談を行い、フィードバックを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内でOJT委員会や研修委員会を設置し、各委員会の中で、外部研修に参加する仕組みがある。外部研修に参加した際は、施設内で報告会を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内で新任職員研修、2年目研修、中堅職員研修等を実施しており、法人内他事業所多職種が集まり意見交換ができるようになっている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>職員は利用者の話を傾聴することを心がけ安心を確保するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用申し込み受付や事前面接において、家族の不安を聞き出すとともに、家庭環境や生活状況を考慮し、家族および利用者にとって一番効果的なサービスを提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当事業所だけでなく、併設事業所や法人内他事業所を提案させていただき、本当に必要なサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする関係を築くため、利用者と同じ空間で昼食を摂るなど工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況報告や連絡、相談を行っている。また、1ヶ月の行事予定表を郵送し、可能であれば行事に参加していただくよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	不定期に実施される個別外出で、自宅周辺や思い出の場所に外出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	当施設では夫婦での入所者もおられ、食堂でのテーブル配置や行事参加の呼びかけ等の気配りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設施設へ転所された利用者は、気分転換に当事業所へ来て他利用者とお話しをされたりと交流を図っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	処遇会議にて利用者とのコミュニケーション方法を検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接において利用者の生活歴をできるだけ詳しく聞き出すことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なバイタルチェックや体調不良の早期発見に努めている。また、体調不良時は併設施設の看護師と協力し外部受診等の対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族、主治医、相談員等の意見も取り入れた介護計画の作成を努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録として個人記録を作成しており、日中の様子を残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その日の利用者の状況によって、突発的に外出を行っている。また、併設事業所と協力し、サービスの多機能化に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者の趣味や特技を把握し、近隣の公民館のサークルに参加している。今後より多くの方が参加できるよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時に、家族から指定の病院があるか確認している。家族の要望があればその病院に受診し適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設施設の診療所と連携を図り、利用者の体調不良時等は看護師に相談し、適切な受診は実施できるよう支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院となった場合は病院の相談員やご家族に状況を確認し、退院許可が下りた時点で速やかに受入れが出来るよう配慮している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化した利用者については、家族と話し合いを行い、併設施設への転所を提案している。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	施設内研修を実施し、緊急時の対応に備えての知識を得よう努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回の消防・避難訓練を実施している。また、うち1回は地域住民に参加していただき、火災時の避難誘導シミュレーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者呼び方について、ちゃん付けやあだ名でよばないよう施設内で取り組んでいる。例外もあるため、その際は家族に同意を取って許可をいただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中においてできるだけ自己決定していただくようコミュニケーションを図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっておらず、その日の利用者の体調や希望によって日々のケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	意思疎通の可能な方の更衣については本人の好きな服を着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は昼食のみ利用者と一緒に摂るようにしている。準備、片付けについても職員と利用者が一緒に厨房まで食事を取りに行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	施設の管理栄養士と連携をとり、栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	利用者の身体状態にもよるが、可能な限り個々の口腔ケアを行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排便チェック表を作成し、排便の周期を把握するよう努めている。また、個々の周期に合わせてトイレ誘導や声掛けを実施している。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	毎朝のラジオ体操の実施と可能な範囲での洗濯干しや掃除を行い、できるだけ体を動かすよう配慮している。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	利用者の希望に合わせた入浴を実施している。入浴の順番等も決めておらず、本人の自己決定によるところが大きい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息の場は居室だけでなく、畳スペースも設置することで、利用者が安心して休める空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が利用者の薬の目的等の理解を深めるよう努めている。また、誤薬や飲み忘れがないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の趣味や特技を把握し、近隣の公民館のサークルに参加やプランターの花植え等を行い支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に外出行事を企画している。利用者全員の希望を実現することは難しいが、実現可能なものにはできるだけ応えるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が可能な利用者は少なく、買い物外出の際は職員があらかじめお金を用意し、外出時に本人に渡すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族に協力してもらい、可能な方のみ実施している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には利用者の作品や行事の写真を掲示している。派手に飾るのではなく、家庭的な雰囲気を出すよう心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間のテーブルを小さくし、利用者同士が近くで話ができるよう配慮している。また、畳スペースにコタツを設置し、利用者同士が話をしやすい環境づくりに努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所時に、今まで使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせる空間を作れるよう努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者によって差はあるものの、それぞれの残存機能を把握し、その機能を最大限活かせるよう努めている。</p>		

V アウトカム項目 (2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 白木の郷

作成日 平成 23 年 12 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者の拡大について	自治会長、民生委員、入居者、家族行政機関だけでなく、地域の老人クラブや女性会等のメンバーも参加していただく	地域交流事業を多く取り入れ、積極的に地域社会へ参加していく	平成23年12月～平成24年12月
2	6	身体拘束についての知識の理解と研修の実施	身体拘束における施設内研修の実施	処遇会議および施設全体で身体拘束についての研修会を実施し、身体拘束における知識を学習する	平成23年12月～平成24年12月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。